

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2-(2)	事業所と地域との交流について地域行事への参加及び事業所行事への来所機会を増やす工夫が必要。	地域行事への参加を更に増やし、また事業所行事への地域の方の来所参加する機会を設ける取り組みを行い、地域との交流を深めることを目標とする。	地域行事の情報を収集し、出来る限り参加する機会を設ける。また、介護相談会や認知症セミナーなど事業所内の行事を定期的実施し、近隣の方が立ち寄れる機会を増やす。	12ヶ月
2	4-(3)	運営推進会議を活かした取り組みについて参加メンバーが固定化されてきている。近所の住人などにも参加の呼びかけを行うことが必要。	近隣の住民、消防署関係者及び地域の学校の先生などの参加への取り組みを行うなど、運営推進会議を活かして地域との交流を深めることを目標とする。	地域の老人福祉員・民生委員の方、管轄の消防署関係者、地域の交番、学校の先生などへ改めて事業所の周知並びに参加の呼びかけを行う。また、参加者が増えた後には、衣笠小学校など近隣の施設を利用することも検討する。	12ヶ月
3	23-(9)	入居者の思いや意向の把握について入居者の情報を更に深く知り、その情報を一元的に管理・共有するための工夫が必要。	入居者の生活歴や馴染みの場所、人間関係などの情報を一元的に管理・共有する。	フェイスシートやアセスメントシート及び一部センター方式の書式を利用し、入居者の過去の生活歴や馴染みの場所、人間関係などの情報を更に深く得た上で、その情報を一元的に管理をし、各ユニットごとに情報を共有する。	12ヶ月
4	54-(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮について使いなれた物や馴染みの物など、更にご家族の協力を得ることが必要。	入居者の使いなれた物や馴染みの物などの情報をご家族から更に得ることにより、認知症の方の落ち着きや安らぎを図ることを目標とする。	日々の関わりや会話の中から興味を示す言葉などを把握し、また、ご家族からの情報を基に、使いなれた物や馴染みの物などの情報を得る。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。